

ニコンD810詳報／いま銀塗がブチフーム～人々の中古カラーランダム特集／キャノンEOS-1シリーズ25年の進化を振り返る

# 日本カメラ

8  
2014

# 中吉力メラ特集

2014 なぜかいま沸騰する銀塩熱!!

石川梵30年の集成  
勢神宮式年遷宮ご祈り  
菊地一郎 / 新美敬子 / 安川啓太  
矢口清貴 / 木之下晃 / 龜山亮

**花火撮影ことはじめ**

低感度撮影術の新定番！

**フルサイズ機の拡張ISO50は使えるか**

次元の高感度性能を試す

プロの要望に応える最強進化

プロの要望に応える最強進化

最強進化

る最強進化

## メーカーに聞く

ソニー-a6000

ソニー株式会社 デジタルイメージング事業本部

- 漆戸 寛 商品設計部門 設計企画室
  - 前田喬行 商品設計部門 プラットフォーム設計部
  - 明壁祐基 デジタルイメージングアプリケーション設計部門
  - 加藤浩司 コア技術部門 光学設計部 2課

聞き手三河田一提／能切士輔



一眼レフ性能をふんだんに盛り込んだ高性能モデル

理しなくてはなりませんよね。測距点が多くなると補間する点数も多くなるわけですが、それによる画質への影響

し、しつかり固めてガツチリ撮るときはコントラストA-Fの方が有利な場合もあります。

実現

**河田** 動画に注力するとレンズ設計が立たんレーズに仕上がるっています。  
**変わってきますか。**

**河田** まずは開発コンセプトからお聞き  
**瀬戸** 従来あった型名にNEXがついた  
シリーズのコンセプトを踏襲しながらも、一眼レフの性能をふんだんに盛り込んだモデルとして仕上げています。  
一眼レフ性能は高速なAFとEが追従する高速連写性能などがそれになります。あと、そこにカスタマイズ性を重視した操作関係も盛り込んでいます。この高性能を皆さんに使って頂くために、普及価格に抑えたことも特長です。

ズがラインアップしたこともあり、リーズ展開を見直した結果、新しいリーズとして  $a6000$  を定義します。NEX-7を使って頂いていたの中には、 $a6000$  に注目しての方と、より高性能を求めて、 $a7$  シリーズに移られた方もいるかと思つて、ます。

行く中では NEX-7 のフラットな天面で「あれ? どうした?」と思ふことがあります。しかし、NEX-7 の形状が非常に評判が良く、「ソニーらしい感じがする」という意見も頂いておりましたので、NEX-7 イメージを残しながらカムフラージュデザインに仕上げることにしました。将来のことは断定できませんが、このシリーズやそれに近い機種は天面のデザインがすつきりしたデザインを踏襲していくカタチになると思います。

河田 NEX-7 では 3 つの電子ダイヤルを使つたトライダイヤルナビという操作系を提倡されていて、個人的にはすごくいいと思っていましたが、a 7 や今回はモードダイヤル式のオーネック式など様々なタイプになりました。もうトライダイヤル式に戻りたいと思つています。

でしょとすると、新モデル開発の際に検討事項になると考えています。 河井  
これだけ測距点が増えますとA ポイントの指定はタップ수가一番やりやすいのかなと思いますが、今回はタップ操作に対応していませんね。

塗井 タッチパネルの有効性は認めていますが、このカメラはファイダーを使って設定しながら撮影したところですが、このタッチパネルはファイ

方もユーザーに考えていました、現時点ではEVF使用時はタッチ操作との両立が難しい部分がありますのでタッチパネルは見送りました。ただ、タッチパネルは自由度の高いデバイスですのでしっかりととした操作を確立してやっていかなければいけないと考えていました。 熊切 NEX-7やNEX-6に比べる

ならないのでしょうか。

塗戸 トライダイヤルナビについて評価を頂いていますので、a600を作ったときもトライダイヤルナビの利点も検討していました。一方、モバイルナビがほしいと言う声が多く頂おり、様々な声を考慮した結果、ドライブダイヤルを取り入れながら、新しい操作手段を採用するタッチにはなりました。代わりにというわけではなく、カスタマイズ機能はNEXよりも大幅に増やしていますので、スタイルに合せて変更して頂けるようにしています。トライダイヤルナビについては大切な機能のひとつと考

卷之三

**河田** ラインアップ的には以前あったNEX-6とNEX-7を統合したモデルという理解でよろしいですか。

**塗戸** NEX-6発売以降にα7シリーズ

りがある方をターゲットにしています。従来からのEマウントユーザーの方や、あとはコンパクトデジタルカメラからステップアップしたいと考えている方のこととも考慮しています。

**河田** 想定するライバル機は。

## 一眼

ルを使ったトライダイヤルナビという操作系を提唱されていて、個人的にはすごくいいと思つていたんですが、α7や今回のα6000はモードダイヤル式のオーディオクスなタイプになりました。もうトライダイヤルナビはや

ました。もうトライダイヤルナビはや

操作は見送りました。ただ、タッチパネルは自由度の高いデバイスですのでしっかりと操作を確立してやつていかなければいけないと考えています。

**熊切** NEX-7やNEX-6に比べるとEVFパネルが236万ドットから144万

ドットへ下がっていますが…。

**塗戸** 今回はEVFの接眼光学系を新規に作り直しています。パネルの実力を最大限に引き出す光学系を狙いましたので、ファインダー全体ではとても見えのよいファインダーに仕上げることができます。

**河田** トータルバランスを考えて144万ドットを採用しています。

NEX-6と比べて見ても、こちらの方がスッキリと見やすいEVFになっています。

**熊切** 今回、電子水準器が搭載されていませんが、ユーチャーの反応は?

**塗戸** コストを含めたトータルバランスを考えて今回は非搭載としています。

斯くて、それでも気にならないという声が

ある一方、付けて欲しかったというご要望も確かにあります。次機種以降の検討課題です。

**河田** APS-Cサイズ24メガというこ

とで、画素数はNEX-7と同じです

が、位相差AFが埋め込まれた以外の撮像素子の進化点は。

**前田** 画素設計 자체が変わっています

し、ギャップレスオーナップレンズ構

造を採用することで集光効率が向上し

高感度性能が良くなっています。

**河田** 位相差AFで使う画素は補間

が多くなると補間する点数も多くなる

わけですが、それによる画質への影響

というのはないですか。

**塗戸** たしかに測距点の数が17点と聞

くと多いように感じますが、約243

0万画素の中の17点とすると少な

く、さらには位相差AF画素の配置を

工夫しておりますので画質への影響が

ないようになります。

理しなくてはなりませんよね。測距点

が多くなると補間する点数も多くなる

わけですが、それによる画質への影響

というのはないですか。

**前田** たしかに測距点の数が17点と聞

くと多いように感じますが、約243

0万画素の中の17点とすると少な

く、さらには位相差AF画素の配置を

工夫しておりますので画質への影響が

ないようになります。

**河田** 位相差AFとコントラストAF

の使い分けは、

明壁 モードによって異なります。A

F/Sの場合は位相差AFだけでなく、

コントラストAFも使っています。一

方、AF-Cモードは動体AF用です。

で、スピード感を生かすために位相差

AFを重視して使っています。NEX

16に比べると、より像面位相差を積極

的に使うしくみになっていますが、そ

れはイメージセンサーが進化したこと

や、処理チップの性能が上がったこと

が関係しています。

**河田** コントラストAFと像面位相差

はコントラストAFの方が有利な場合

し、しっかりと固めてガッチャリ撮るとき

はコントラストAFの方が有利な場合

もあります。

**河田** F1.4とかの明るいレンズを絞り

開放で静止した被写体を撮る場合はど

うでしょう。

**明壁** 一眼レフに搭載されている位相

A/Fの場合、特定の光束を見ています

ので、絞り値による差は出ません

が、像面位相差AFはレンズを通った

光束を使って撮像面上で測距をしま

す。そこが一眼レフとは違うところ

で、明るいレンズの絞り開放でも十分

良い精度が出ます。

**河田** 画質面で進化したところは。

**前田** 画像処理エンジンがBIONZ

Xと新しくなり、解像感や質感表現な

どは飛躍的に良くなっています。また

撮像素子の進化とも合わせて、高感度

性能が良くなりISO25600を実

現しました。

**河田** 18~105mmF4ですが、狙ったタ

ーを狙っています。静止画と動画を両

立したレンズに仕上がっていません。

**河田** 動画に注力するとレンズ設計が

変わりますか。

**加藤** 開発当初はE18~200mmF3.5~6.3

OSと同様に繰り出し鏡胴で考

えていました。それでは動画撮影時に

録音されてしまうノイズを抑えること

が難しかため、ノイズに有利なハンデ

が、像面位相差AFはレンズを通った

光束を使って撮像面上で測距をしま

す。そこが一眼レフとは違うところ

で、明るいレンズの絞り開放でも十分

良い精度が出ます。

**河田** 画質面で進化したところは。

**前田** 画像処理エンジンがBIONZ

Xと新しくなり、解像感や質感表現な

どは飛躍的に良くなっています。また

撮像素子の進化とも合わせて、高感度

性能が良くなりISO25600を実

現しました。

**河田** 35mmF1.8のコンセプトは。

**加藤** 24mmと50mmのF1.8シリーズが

で、あるので、標準域でもF1.8のレン

ズをご提供したいと考えました。小型

で比較的安価ですので、エントリーユ

ニ

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー